

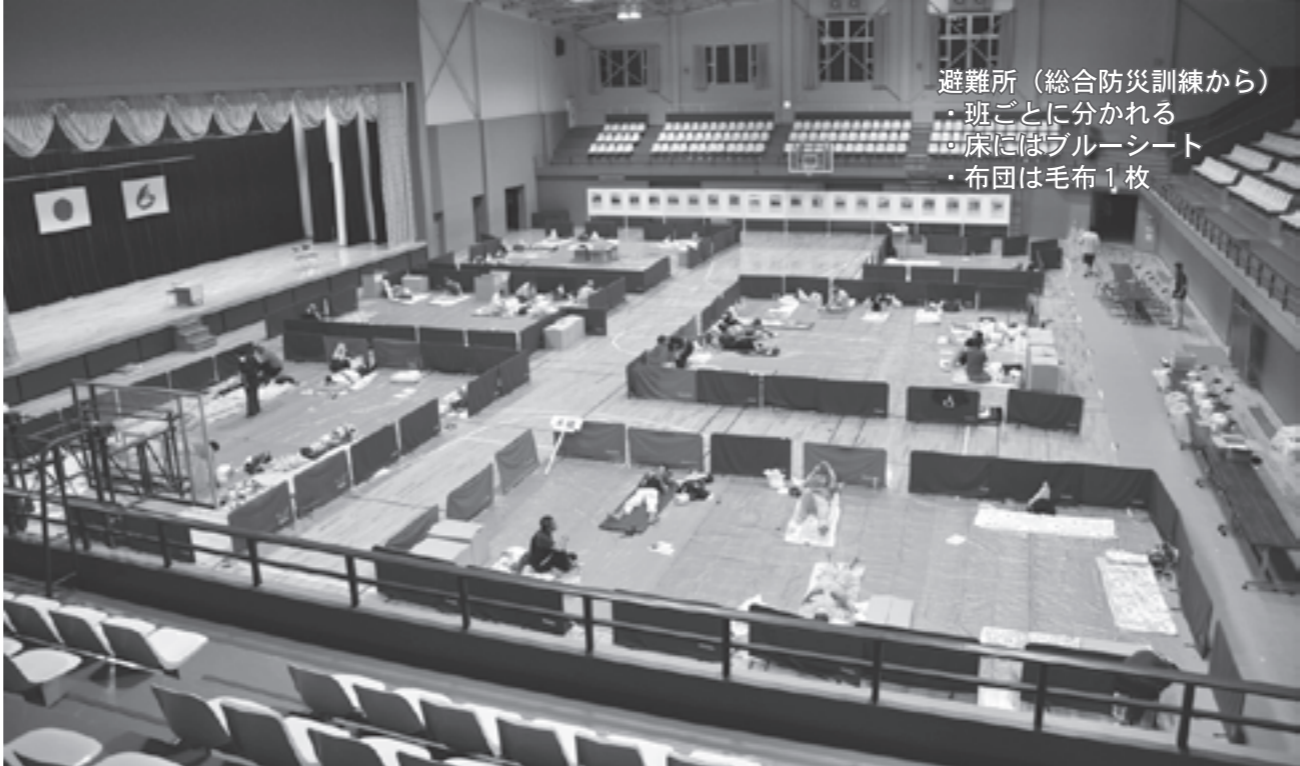
# あなたは どうしますか？

## 備える心を ～市総合防災訓練から～

にかほ市沖には日本海側の地震空白域があります。さらに、太平洋側の大地震（東日本大震災）と鳥海山などの火山との連動性が研究者から指摘されています。地震や津波、噴火などがいつ発生してもおかしくない状況と言えます。

平成23年度にかほ市総合防災訓練が9月3日、4日に行われ

ました。これまでにない体育館での避難所運営訓練を主とする2日間にわたる長時間の訓練でした。大震災の記憶が新しく、その教訓を被害がなかった本市でも活かそうとするものです。大震災を例に挙げるまでもなく、自然災害は想定どおりに起こるものではありません。夜間や旅行先でも地震は発生します。津波や豪雨、大雪と災害の種類もさまざまです。そうした不測の事態に対応するのは、我々一人ひとりの備える心と言えます。総合防災訓練では宮城・福島からの避難者2名の方から、震災の経験を語っていただきました。訓練の中でもさまざま改善すべき点が見つかったようです。防災訓練を総括しながら、市防災危機管理センターから市民の皆さんへ「備える心」の大切さをお伝えします。



## 共助・公助

今年の防災訓練では、市の職員が被災地に派遣され、避難所生活を体験していることもあり、現地での経験などを踏まえて、避難所の開設・運営をメニューに取り入れました。

避難所生活は共同生活  
避難所が開設されるのは、地震・津波などの災害では概ね当面の危険が去った後になります。住宅が被災したり、情報や食料、暖房を求めて集まります。台風など、災害発生の予測ができる時は、事前に開設します。集落や自治会の会館などが避難所となる場合は、建物の開放（避難所開設）について取り決めておくことが大切です。



▲避難所の朝食（総合防災訓練から）

す。会館へ発電機を配備している自治会もあります。こうした地域での備えが望まれます。

避難所生活が数日以上に及ぶような場合には、共同生活をスムーズにするため避難所運営委員会を組織します。食料が偏りがちになることから、健康管理にも注意が必要になります。

災害時に、市では3庁舎を各地域の拠点として情報収集にあたります。庁舎には自家発電装置も設置され、停電時外部との情報伝達が可能です。

それでも大規模な災害では、行き届かないことが予想されます。自治会や自主防災組織などは行政も頼りにする存在です。庁舎は公的な施設。一時的な避難や情報を求めに、あるいは各地域の状況報告に来庁していた（危険の及ばない範囲で）ことを希望します。

## 防災危機管理センターから

9月に行った総合防災訓練は、東日本大震災を踏まえ、災害発生時における迅速での確かな応急対策と、防災機関と地域住民が協力して避難所を開設し、運営する体制を確認しようという意図したものです。

訓練は朝7時、市内全域の住民避難訓練から始まり、情報収集訓練、災害対策本部設置訓練へと続きました。防災への関心の高さが伺え、約4千名の市民が避難訓練に参加しました。情報収集・対策本部の訓練でも大震災の経験が活かされていたと考えます。

## まずは自助

まず、訓練のための訓練とせず、自分（家族）の生命を守るために「避難は自分の判断で行う」と考えてください。

避難訓練では「◎月○日□時に△公園に集合してください」と、あらかじめ伝えられます。しかし、大震災では防災無線が損傷し、サイレンが鳴らなかつたケースもありました。

## 東日本大震災の体験談

阿部利行さん（宮城県南三陸町）  
地震の後、海水が退いて海底が見えました。初めてのことでしたが、言い伝えて「津波が来る」ことを直感しました。高台へ避難しました。

体育館で妻を見つけ、そこから数百mほどの、子どもたちがいると思われる学校を一晚中見ました。水が退かなかつたからです。翌朝、子どもたちを抱きながら連れ帰った時の、町の光景は忘れられません。

石油ストーブやラジオ、その他、災害備品が必要なことを、今は身にしみて感じられます。

避難訓練（総合防災訓練から）



災害時には、身に迫る危機に備え、正しい情報に基づく冷静な判断が重要ですが、情報が断たれた時、個人個人が身を守る（自助）ために動かなければなりません。

「大きな地震の後には津波に備え高台に避難する」防災無線が鳴らなくとも、大震災で津波から逃れることができた人々の行動です。

## ご近所

隣近所の助け合いも必要です。◎警報発令などの情報は、ご近所で共有できます。土砂災害や河川の増水などに対しては、天気予報を見て、隣近所で避難について相談しておくことができます。

## 作山悟さん（福島県広野町）

海に白い線が見え、10mを越える津波が恐ろしい音とともにやってきました。水が退いては、何回も何回も。防波堤、松林、すべて越えて…。家や家族を心配して家に戻った何人かは、帰ってきませんでした。このことを、改めて考えてほしいです。

幸い、私の家族は無事でしたが、3日後、第一原発が爆発。原発から離れたいわき市の避難所へ行きました。ビニールシートで密閉され、食料も水も毛布も足りない生活。

現在、にかほで暮らしていますが、普通の生活のありがたさを感じています。

## 人権擁護委員に新任

齋藤乃里子氏（小滝）  
10月1日付で法務大臣から人権擁護委員に委嘱されました。



▼任期：平成23年10月1日  
～26年9月30日

## 防災あんしんメール

ご注意！～登録前に確認を～

登録前に anshin@bousai.city.nikaho.akita.jp

からメール受信できるように設定してください。

迷惑メールの防止設定をしているとメールが配信されません。

問合せ先 防災危機管理センター

☎43-7504



登録用QRコード